徘徊について

認知症の人は目的があって出かけていく。
なんでここに自分がいるのか、わからなくなる。
まわりの子どもが大人になっていることをわからなくなる。
現在は、幻視でまわりの家がわからない。景色が変わってしまう。
優しく見守る　→　責められると焦る。
家から出て外で接触することは大切だが、
失敗を指摘されると動きたくなくなる。
負ってきた生活そのものが出てくる。
疲れ以上に興味がある。
若いころの興味はわかってもらえないのと同じ。
本人は楽しく歩いているかもしれない。

患者の徘徊に悩む家族への
メッセージ

① 本人には目的があって徘徊している。

② 外での接触は大事なのに、責められると出たくなくなる。

③ 徘徊は、若い時と同じで、疲れがわからない。疲れ以上に興味がある。

④ あるはずのものが、見えなくて迷子になる。

「徘徊について」のポイント